

計画を手放すこと 身体で感覚で反応すること

馬が子どもと大人の対等な関係をつくる



話し手 澤田いのり

作業療法士

日本感覚統合学会 会長の
土田玲子さんが主宰する
発達支援の現場に数年携わる

2025年秋頃からJICA海外協力隊
でドミニカ共和国に派遣

「子ども中心」

ではなく

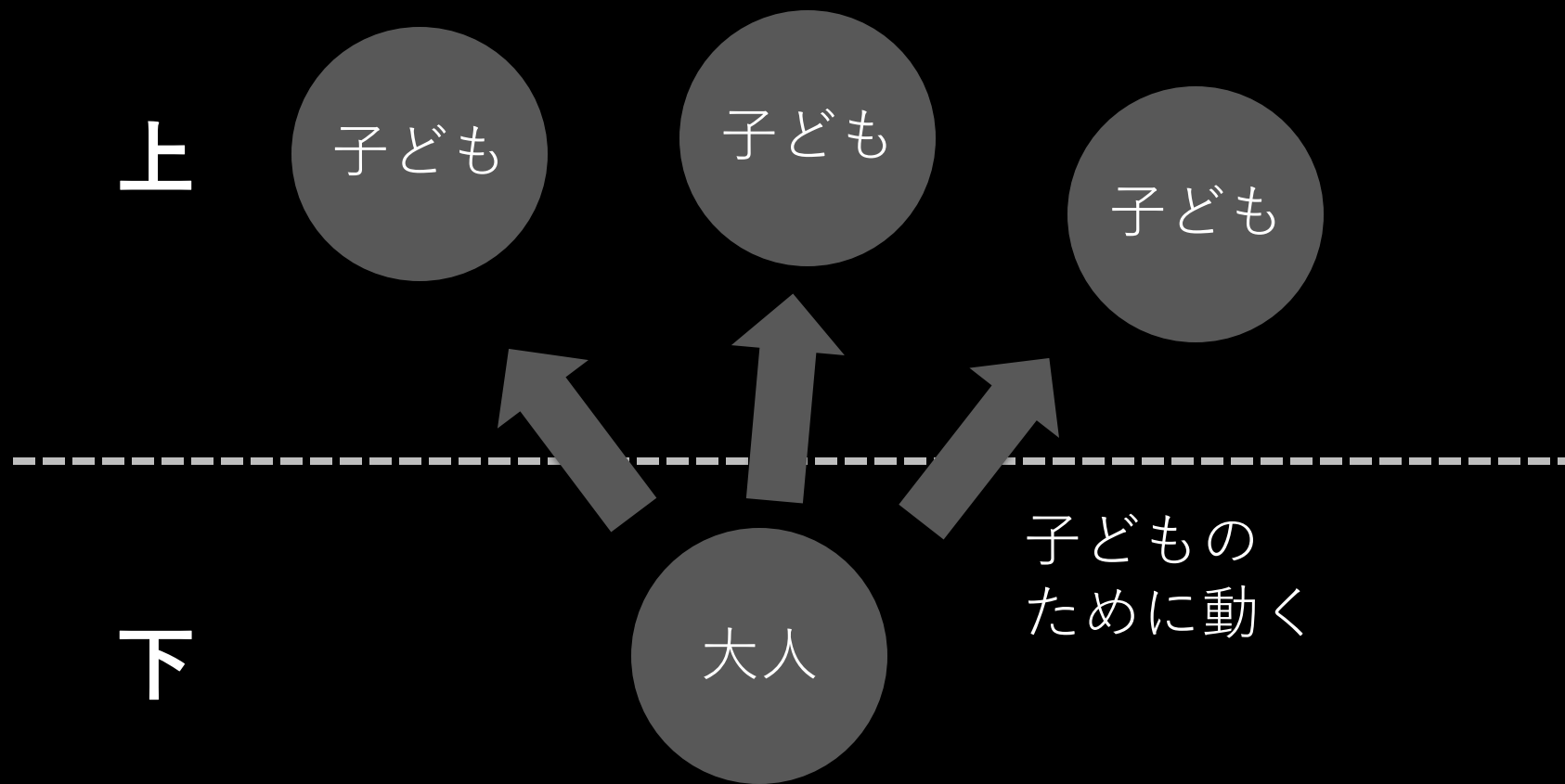
「馬中心」

子ども中心

- 自分たちが子どもに合わせた環境を頑張ってつくってきました。
- 一緒にやれている感も確かにあるけど、その子が「やってもらってる」ように感じる場面も多くて…。

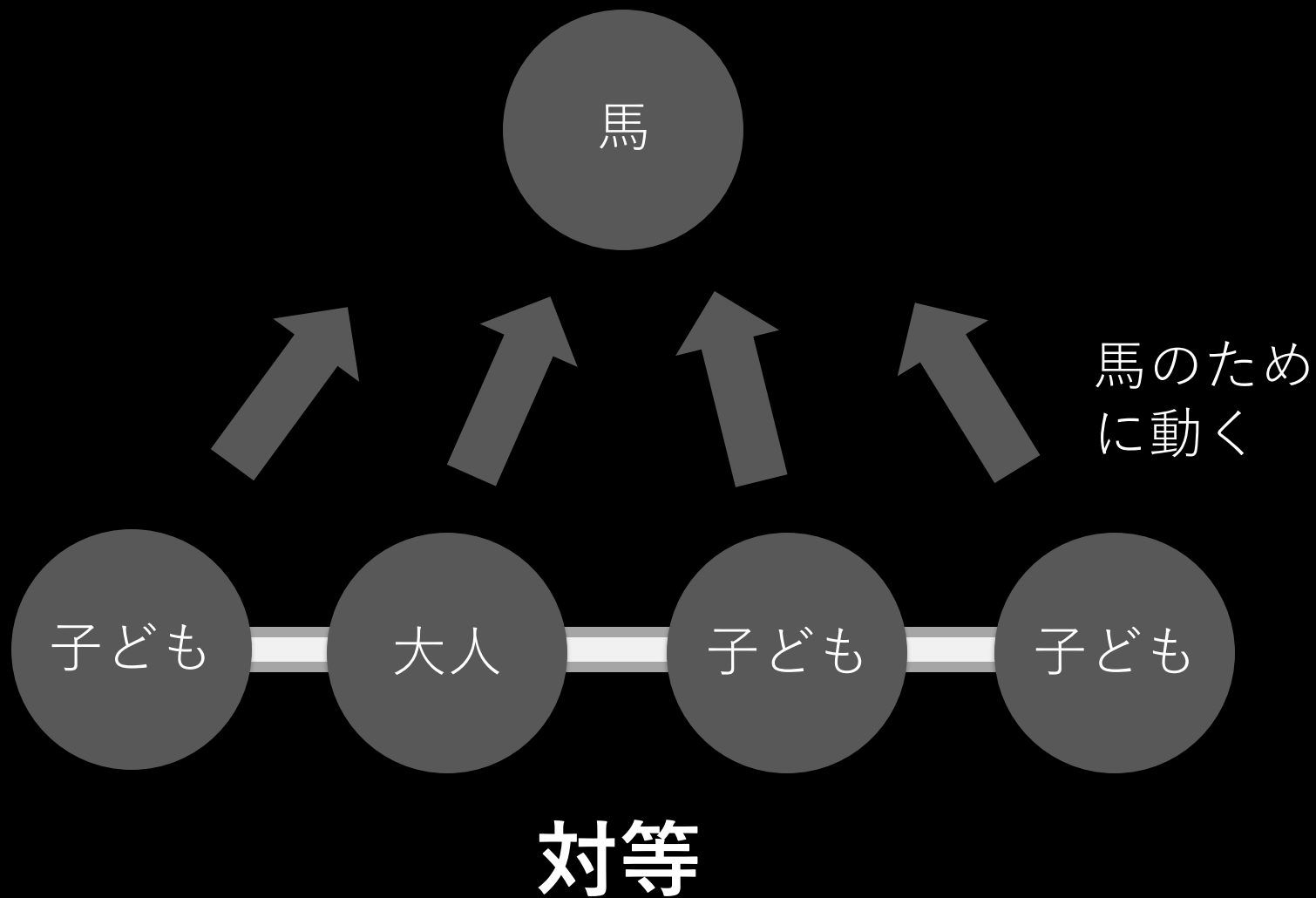
- 「やって」って誰かが指示しているわけじゃなくて、大人も子どもも一緒に掃除して運んで。同じ作業を同じ道具を使ってやる。「ここを綺麗にしよう」というゴールに向かって、一緒にやってる。
- 「誰かが引っ張ってる」という感じではないんですよね。本当に足並みを揃えて歩いている。

「子ども中心」作られた環境



※上下が逆になることも

「馬中心」馬がいる環境



「計画的」

ではなく

「身体感覚」で応答

雰囲気で行ってるのかな？

- 「これやって」とか、明確な指示が少ないですよ。多分、それぞれが見て動いてる。
- 雰囲気を察して動く感じ。
指示待ち人間じゃなく自分で考えて動く。
- ザクって捉えてるから、余裕があって
臨機応変に動ける。余白が生まれる感じ

計画を手放す

- 計画的にやろうとすると
「計画に〈はまってる／はまってない〉」
という視点でしか見れなくなっちゃう
- やることを事前に決めない代わりに、
「こういう場が良い」
「こういう関わり合いが良い」
という感覚は共通に持っています。